

令和3年度
先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金
(C) 指定設備導入事業

省エネルギー量計算の手引き 【指定計算（調光制御設備）】

2021年5月

はじめに

本手引きは、「令和3年度先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金（C）指定設備導入事業（以下、「本事業」という）」における省エネルギー計算の考え方や注意点等を説明したものです。

■更新履歴

No.	版番	更新日	更新ページ	更新内容
1	1.0	2021/05/27	-	新規作成

補助対象設備の範囲と基準値

以下の基準値を満たす設備が補助対象です。「その他注意事項」も含め補助対象設備であるか、事前にご確認ください。

調光制御設備

対象設備の基準値

調光制御機能等※を有する照明器具

種別	基準値（照明器具について）	
	光源色	固有エネルギー消費効率
9-1.無線式調光制御設備	昼光色・昼白色・白色	100lm/W以上
	温白色・電球色	50lm/W以上
9-2.有線式調光制御設備	昼光色・昼白色・白色	100lm/W以上
	温白色・電球色	50lm/W以上
9-3.人感・明るさセンサ付 調光制御設備	昼光色・昼白色・白色	100lm/W以上
	温白色・電球色	50lm/W以上

<備考>

※本事業における調光制御設備（無線式、有線式、人感・明るさセンサ付）の定義は以下の通りとする。

1. 照明器具

照明器具は次による。

- 電気用品安全法等の国内法規に準じたもの。
- 商用電源により点灯するものに限る。但しコンセントより給電する照明器具は対象外とする。
- 既設照明器具の改造を伴う場合は対象外とする。
- 蛍光灯、白熱電球、放電ランプ、電球形LEDランプと互換性を有する口金をもつものは対象外とする。

2. 調光制御設備

原則、同一メーカーの連続調光照明器具と照明制御器の組み合わせとするほか、次による。

2-1. 連続調光器具

調光制御システムと組み合わせる器具は、調光信号により出力を連続的に制御し、調光下限値を35%以下としたものとする。

2-2. 照明制御器

- 照明制御器は、センサ、照明制御部等で構成し、センサからの情報及びあらかじめ設定された条件から照明器具の光出力又は点滅を制御できるものとする。
- 調光信号を送出し、25台以上の照明器具を制御できるものとする。

2-3. 無線式

無線通信機能付照明器具と無線通信機能付照明制御機器の組合せにより制御するシステムとする。

2-4. 有線式

専用の調光信号線により、連続調光器具と照明制御器を接続し制御するシステムとする。

3. センサ

照明制御器のセンサおよびセンサ付き器具のセンサは、次による。

3-1. 明るさセンサ

明るさセンサが感知した光量に応じて調光できるものとする。

3-2. 人感センサ

- 人感センサは、センサから直線距離2.5m以上検知できるものとする。
- 消灯と減光は切り換えられるものとし、減光時の光束は感知時の全光束に対しての比率で30%以下で設定されているものとする。

4. 制御

調光制御設備の導入に当たり、以下の制御の内、一つ以上の制御を採用すること。

(1) スケジュール制御

あらかじめ設定したタイムスケジュールに従い、個別回路、グループ化又はパターン化した回路を自動的に点滅又は調光制御する。

(2) 明るさセンサによる一定照度制御

明るさセンサからの信号により、あらかじめ設定した照度に調光制御する。

(3) 在／不在調光制御

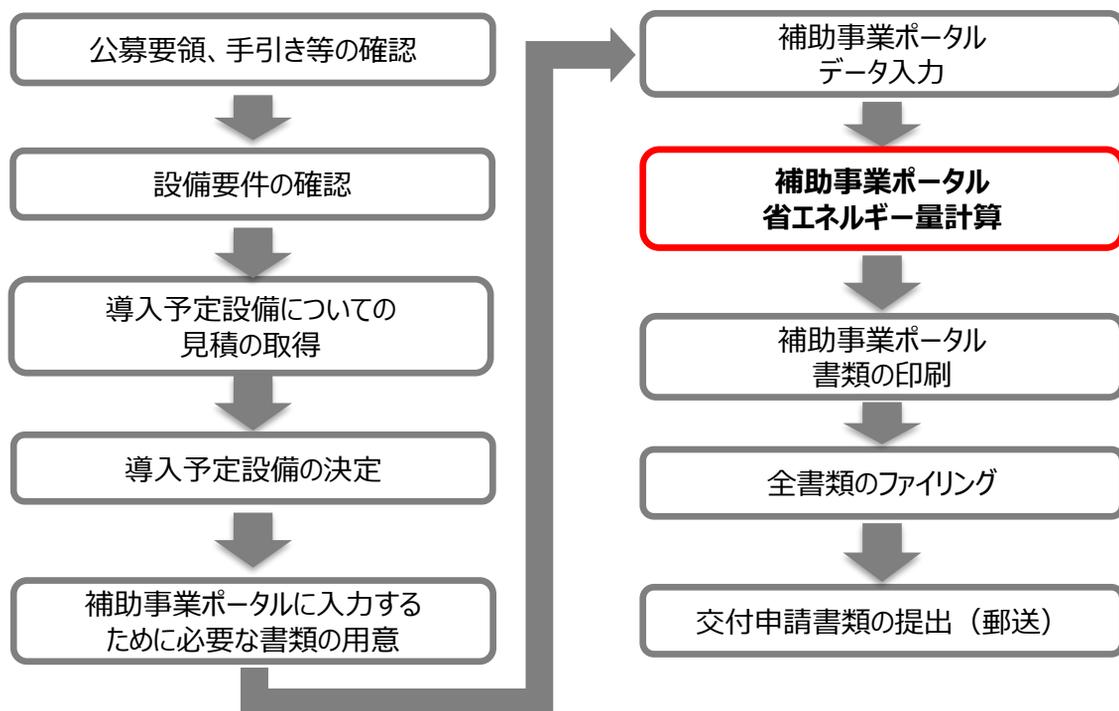
人感センサ又は微動検知人感センサからの信号により、あらかじめ設定した個別回路を点滅又は調光制御する。
なお、調光制御にあたっては、緩やかに調光できるものとする。

<参考> 交付申請全体の流れと、本手引きの位置づけ

本事業への交付申請にあたっては、以下に示す各手順を追って交付申請書を作成し、提出する必要があります。本手引きは、以下の手順のうち「補助事業ポータル 省エネルギー量計算」について、考え方や注意点等を説明したものです。それ以外の手順については、別途公開の「交付申請の手引き」を参照してください。

■ 交付申請全体の流れと、本手引きの位置づけ

<交付申請の流れ>

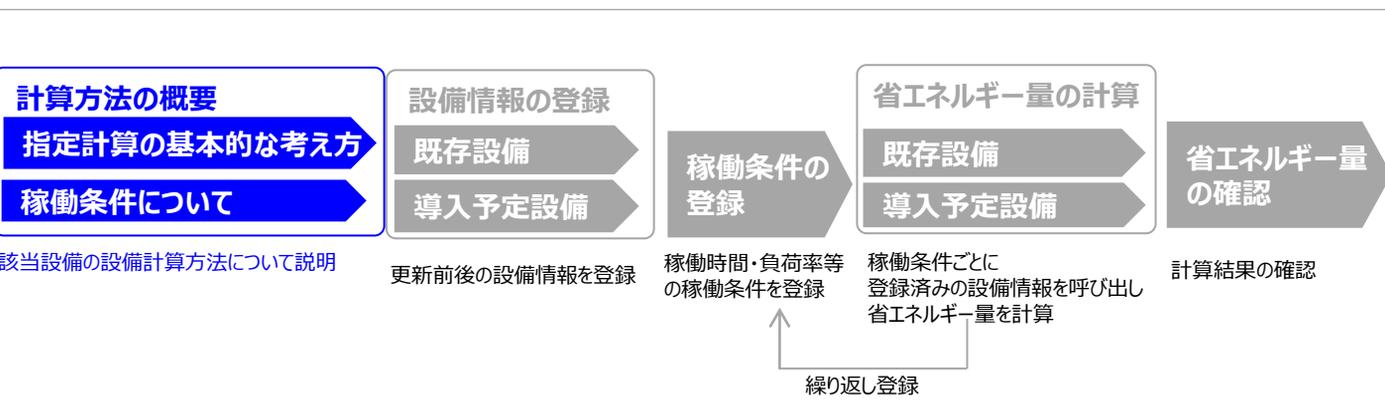


■ 省エネルギー量計算の流れと本手引きで説明する内容について

補助事業ポータル省エネルギー量計算の流れは、以下の通りです。本手引きでは該当設備の計算方法の概要について説明いたします。

<省エネルギー量計算の流れ>

← 本手引きでの説明内容 → ポータルの手引きでの説明内容 →



目次

はじめに	P. 1
<参考> 補助対象設備区分と設備区分毎に定める基準表	P. 2
<参考> 交付申請全体の流れと、本手引きの位置づけ	P. 3
目次	P. 4
計算方法の概要	P. 5
電気式パッケージエアコン、ガスヒートポンプエアコンの指定計算に関する基本的な考え方について	P. 5
計算方法（指定計算）	P. 5
稼働条件について	P. 6
参考	P. 7
<参考> 調光制御設備の計算式と使用データ	P. 8

計算方法の概要

■ 調光制御設備の指定計算に関する基本的な考え方について

- **既存設備の電力使用量**
種別、種類・灯数から推定した定格消費電力(W)と、稼働時間(h)を用いて算出します。
- **導入予定設備の電力使用量**
定格消費電力(W)と稼働時間(h)を用いて算出します。

■ 計算方法（指定計算）

計算方法	内容	計算に関わるポータル項目	
指定計算	補助事業ポータル内の自動計算機能を利用して省電力量を計算する方法 <ul style="list-style-type: none">・ SIIが設定する計算式を使用・ 稼働時間は、平均的な「1日あたりの運転時間」「1ヶ月あたりの運転日数」を通年で同一とみなして算出・ 既存設備はカタログ・仕様書の性能値を使用してエネルギー使用量を算出・ 導入予定設備の性能値は、製品型番登録された値を使用	既存設備	<ul style="list-style-type: none">・ 種類・灯数等・ 稼働時間
		導入予定設備	<ul style="list-style-type: none">・ 定格消費電力

■ 計算時の注意事項

- 稼働時間は、計算方法に関わらず「設備の更新前後で同じ」という前提で計算してください。
- 光色を調整できるタイプの定格消費電力は、最大値を用いて計算してください。
- 指定計算を使用して計算した既存設備、及び導入予定設備それぞれの計算結果が適切な値であることを必ず確認してください。特に、既存設備の計算結果については、事業所全体の電力使用量を示す検針票・請求書等の実績値と比較し、事業所全体に対する割合が適切か確認してください。
- 指定計算では、高効率な照明器具への更新による省エネ効果に加えて、調光制御による省エネ効果を、年間で一律5%として計算を行います。
- (C) 指定設備導入事業のみの申請であって、調光制御設備の申請においては、独自計算は選択できません。

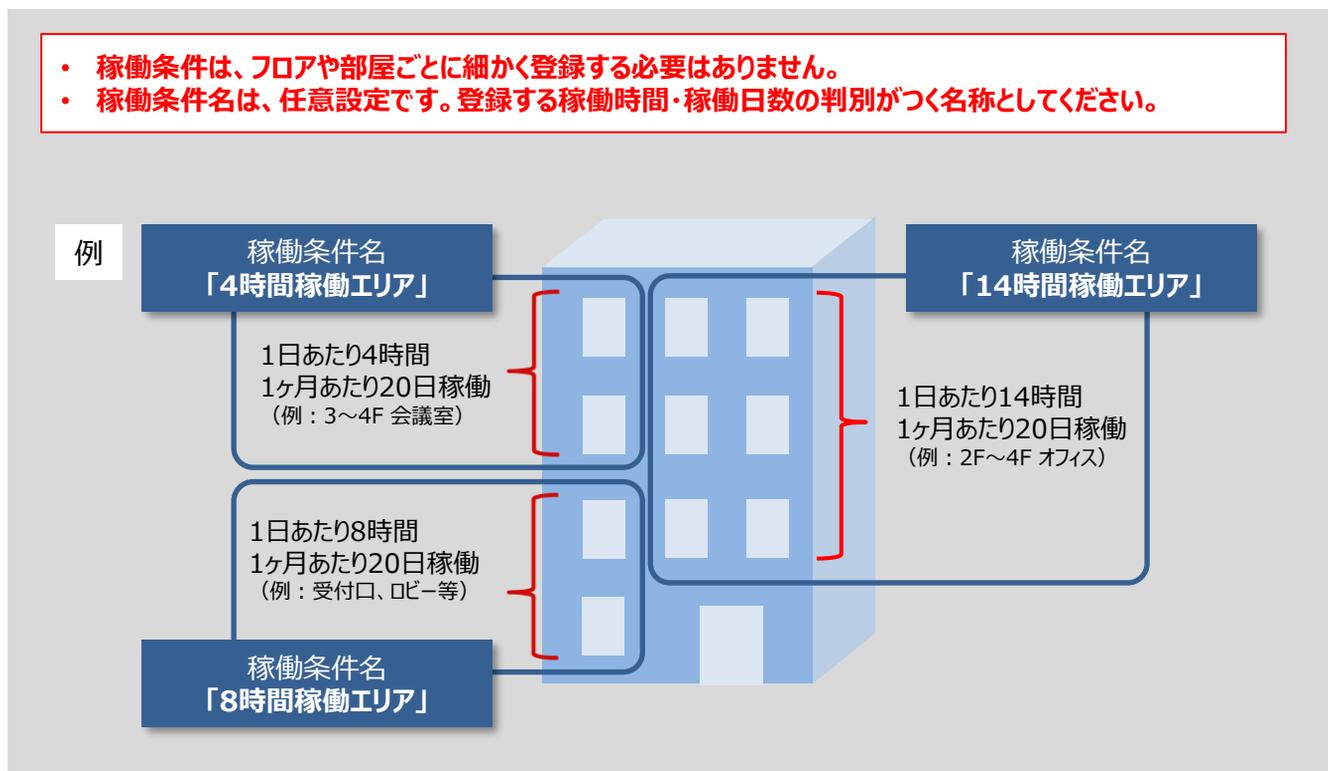
計算方法の概要

■稼働条件について

- 省エネルギー量計算で使用する「稼働時間」「負荷率」等、設定する条件を「稼働条件」と呼びます。
- 調光制御設備では「運転時間」のみを稼働条件として設定します。
- 既存設備、導入予定設備の稼働条件は同一として計算を行い、エネルギー使用量を比較します。

※無線式調光制御設備、及び有線式調光制御設備に該当する調光制御器が、導入する全ての照明器具（人感・明るさセンサ付調光制御設備を除く）を調光制御できる組み合わせになっていることを確認してください。

- 稼働条件は、フロアや部屋ごとに細かく登録する必要はありません。
- 稼働条件名は、任意設定です。登録する稼働時間・稼働日数の判別がつく名称としてください。



調光制御設備用計算式と使用データについて

<参考> 調光制御設備の計算式と使用データ**■ 調光制御設備の指定計算の計算手順と計算式**

調光制御設備の指定計算については下記の考えに基づき、補助事業ポータルで計算を行っています。

凡 例		
<input type="text"/> 既存設備：製品カタログ等から転記する値 導入予定設備：製品型番登録されている値	<input type="text"/> 実績又は計画に基づき入力する値	<input type="text"/> 使用データや計算ロジックによって自動入力される値

1. 既存設備のエネルギー使用量算出の計算

以下の情報を用いて、既存設備のエネルギー使用量を求める。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{既存設備} \\ \text{定格消費電力} \times \\ \text{稼働時間} \times \\ \text{既存設備} \\ \text{台数} \times \\ \text{単位変更} \\ 1/1,000 \\ \text{[W} \Rightarrow \text{kW]} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{既存設備} \\ \text{消費電力量} \\ \text{[kWh/月]} \\ \hline \end{array}$$

※補助事業ポータルのプルダウンで選択できる種別、種類・灯数等から定格消費電力を推定。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{既存設備} \\ \text{消費電力量} \\ \text{[kWh/月]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{単位変更} \\ 1/1,000 \\ \text{[kWh} \Rightarrow \text{MWh]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{熱量変換係数} \\ 9.97 \\ \text{[GJ/MWh]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{原油換算係数} \\ 0.0258 \\ \text{[kl/GJ]} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{既存設備} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array}$$

月間の原油換算使用量から年間の原油換算使用量を計算する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{4月} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{5月} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array} + \dots + \begin{array}{|c|} \hline \text{翌年3月} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{既存設備} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/年]} \\ \hline \end{array}$$

2. 導入予定設備のエネルギー使用量算出の計算

以下の情報を用いて、導入予定設備のエネルギー使用量を求める。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{導入予定設備} \\ \text{定格消費電力} \\ \text{[W]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{調光制御} \\ \text{効果係数} \\ 0.95 \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{稼働時間} \times \\ \text{[h/月]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{導入予定設備} \\ \text{導入予定台数} \\ \text{[台]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{単位変更} \\ 1/1,000 \\ \text{[W} \Rightarrow \text{kW]} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{導入予定設備} \\ \text{消費電力量} \\ \text{[kWh/月]} \\ \hline \end{array}$$

※導入予定設備の稼働時間は、既存設備の稼働時間と同じとする。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{導入予定設備} \\ \text{消費電力量} \\ \text{[kWh/月]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{単位変更} \\ 1/1,000 \\ \text{[kWh} \Rightarrow \text{MWh]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{熱量変換係数} \\ 9.97 \\ \text{[GJ/MWh]} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{原油換算係数} \\ 0.0258 \\ \text{[kl/GJ]} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{導入予定設備} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array}$$

月間の原油換算使用量から年間の原油換算使用量を計算する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{4月} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{5月} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array} + \dots + \begin{array}{|c|} \hline \text{翌年3月} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/月]} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{導入予定設備} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/年]} \\ \hline \end{array}$$

3. 省エネルギー量算出の計算

1.と2.の計算を既存・導入予定設備で実施し、各々の原油換算使用量を求める。
既存・導入予定設備の差分を省エネルギー量とする。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{既存設備} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/年]} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{導入予定設備} \\ \text{原油換算使用量} \\ \text{[kl/年]} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{省エネルギー量} \\ \text{[kl/年]} \\ \hline \end{array}$$

<参考> 調光制御設備の計算式と使用データ**■使用データ1**

指定計算で使用される既存設備の「定格消費電力」のデータは下表の通りです。

種別	種類・灯数等	定格消費電力
直管蛍光ランプ	直管蛍光ランプFHF16形 1灯用 ・ 高出力	26
	直管蛍光ランプFHF16形 2灯用 ・ 高出力	50
	直管蛍光ランプFHF32形 1灯用 ・ 高出力	48
	直管蛍光ランプFHF32形 1灯用 ・ 定格出力 又は 不明	35
	直管蛍光ランプFHF32形 2灯用 ・ 高出力	95
	直管蛍光ランプFHF32形 2灯用 ・ 定格出力 又は 不明	70
	直管蛍光ランプFHF32形 3灯用 ・ 高出力	143
	直管蛍光ランプFHF32形 3灯用 ・ 定格出力 又は 不明	105
	直管蛍光ランプFHF32形 4灯用 ・ 高出力	190
	直管蛍光ランプFHF32形 4灯用 ・ 定格出力 又は 不明	140
	直管蛍光ランプFHF32形 5灯用 ・ 高出力	238
	直管蛍光ランプFHF32形 5灯用 ・ 定格出力 又は 不明	175
	直管蛍光ランプFHF32形 6灯用 ・ 高出力	285
	直管蛍光ランプFHF32形 6灯用 ・ 定格出力 又は 不明	210
	直管蛍光ランプFHF63形 1灯用	64
	直管蛍光ランプFHF63形 2灯用	125
	直管蛍光ランプFHF86形 1灯用	87
	直管蛍光ランプFHF86形 2灯用	172
	直管蛍光ランプFHF86形 3灯用	259
	直管蛍光ランプFL20・FLR20形 1灯用	21
	直管蛍光ランプFL20・FLR20形 2灯用	41
	直管蛍光ランプFL20・FLR20形 3灯用	62
	直管蛍光ランプFL20・FLR20形 4灯用	82
	直管蛍光ランプFL20・FLR20形 5灯用	103
	直管蛍光ランプFL20・FLR20形 6灯用	123
	直管蛍光ランプFL40形 1灯用 ・ 磁気式安定器	42
	直管蛍光ランプFL40形 2灯用 ・ 磁気式安定器	83
	直管蛍光ランプFL40形 3灯用 ・ 磁気式安定器	125
	直管蛍光ランプFL40形 4灯用 ・ 磁気式安定器	166
	直管蛍光ランプFL40形 5灯用 ・ 磁気式安定器	208
	直管蛍光ランプFL40形 6灯用 ・ 磁気式安定器	249
	直管蛍光ランプFLR40形 1灯用 ・ 磁気式安定器	41
	直管蛍光ランプFLR40形 2灯用 ・ 磁気式安定器	78
	直管蛍光ランプFLR40形 3灯用 ・ 磁気式安定器	119
	直管蛍光ランプFLR40形 4灯用 ・ 磁気式安定器	156
	直管蛍光ランプFLR40形 5灯用 ・ 磁気式安定器	197
	直管蛍光ランプFLR40形 6灯用 ・ 磁気式安定器	234
	直管蛍光ランプFLR110形 1灯用 ・ 磁気式安定器	108
	直管蛍光ランプFLR110形 1灯用 ・ 電子安定器	94
	直管蛍光ランプFLR110形 2灯用 ・ 磁気式安定器	208
	直管蛍光ランプFLR110形 2灯用 ・ 電子安定器	187
	直管蛍光ランプFLR110形 3灯用 ・ 磁気式安定器	316
	直管蛍光ランプFLR110形 3灯用 ・ 電子安定器	281
	環形蛍光ランプ	環形蛍光ランプFCL20形 1灯用
環形蛍光ランプFCL30形 1灯用		31
環形蛍光ランプFCL32形 1灯用		36
環形蛍光ランプFCL40形 1灯用		47
環形蛍光ランプFCL32形+30形		64
環形蛍光ランプFCL40形+32形		80
環形蛍光ランプFCL40形+32形+30形		108
環形蛍光ランプFHC13形 1灯用		16
環形蛍光ランプFHC20形 1灯用		27
環形蛍光ランプFHC27形 1灯用		36
環形蛍光ランプFHC34形+13形		59
環形蛍光ランプFHC27形+20形		62
環形蛍光ランプFHC34形+20形		70
環形蛍光ランプFHC34形+27形		81
環形蛍光ランプFHC34形+27形+20形		106
環形蛍光ランプFHC41形+34形+27形		123
環形蛍光ランプFHD40形 1灯用		36
環形蛍光ランプFHD70形 1灯用		64
環形蛍光ランプFHD85形 1灯用		76
環形蛍光ランプFHD100形 1灯用		91
環形蛍光ランプFHD100形+40形		120

<参考> 調光制御設備の計算式と使用データ

■ 使用データ2

種別	種類・灯数等	定格消費電力
コンパクト蛍光灯	コンパクト蛍光灯FDL13形 1灯用	15
	コンパクト蛍光灯FDL18形 1灯用	18
	コンパクト蛍光灯FDL27形 1灯用	25
	コンパクト蛍光灯FPL13・FML13形 1灯用	18
	コンパクト蛍光灯FPL18・FML18形 1灯用	22
	コンパクト蛍光灯FPL27形・FML27形 1灯用	24
	コンパクト蛍光灯FPL36形・FML36形 1灯用	36
	コンパクト蛍光灯FPL36形・FML36形 2灯用	70
	コンパクト蛍光灯FPL36形 3灯用	106
	コンパクト蛍光灯FPL36形 4灯用	140
	コンパクト蛍光灯FPL55形 3灯用	159
	コンパクト蛍光灯FPL55形 4灯用	210
	コンパクト蛍光灯FHP23形 1灯用	26
	コンパクト蛍光灯FHP23形 2灯用	49
	コンパクト蛍光灯FHP32形 3灯用 ・ 省電力	93
	コンパクト蛍光灯FHP32形 3灯用 ・ 定格出力 又は 不明	105
	コンパクト蛍光灯FHP32形 4灯用 ・ 省電力	124
	コンパクト蛍光灯FHP32形 4灯用 ・ 定格出力 又は 不明	138
	コンパクト蛍光灯FHP45形 3灯用	141
	コンパクト蛍光灯FHP45形 4灯用	188
	コンパクト蛍光灯FHP105形 1灯用	92
コンパクト蛍光灯FHP105形 2灯用	218	
コンパクト蛍光灯	コンパクト蛍光灯FHT16形 1灯用	19
	コンパクト蛍光灯FHT24形 1灯用	27
	コンパクト蛍光灯FHT24形 2灯用	53
	コンパクト蛍光灯FHT24形 3灯用	80
	コンパクト蛍光灯FHT24形 4灯用	106
	コンパクト蛍光灯FHT32形 1灯用	35
	コンパクト蛍光灯FHT32形 2灯用	70
	コンパクト蛍光灯FHT32形 3灯用	105
	コンパクト蛍光灯FHT32形 4灯用	140
	コンパクト蛍光灯FHT42形 1灯用	45
	コンパクト蛍光灯FHT42形 2灯用	90
	コンパクト蛍光灯FHT42形 3灯用	135
	コンパクト蛍光灯FHT42形 4灯用	180
	コンパクト蛍光灯FHT57形 1灯用	65
	コンパクト蛍光灯FHT57形 2灯用	144
	コンパクト蛍光灯FHT57形 3灯用	209
	コンパクト蛍光灯FHT57形 4灯用	288
	コンパクト蛍光灯FPL/HF32形 3灯用	103
	コンパクト蛍光灯FPL/HF32形 4灯用	136
	コンパクト蛍光灯FPL/HF45形 3灯用	141
コンパクト蛍光灯FPL/HF45形 4灯用	188	
HIDランプ	HIDランプ高圧水銀ランプ 40形	52
	HIDランプ高圧水銀ランプ 80形	97
	HIDランプ高圧水銀ランプ 100形	115
	HIDランプ高圧水銀ランプ 200形	213
	HIDランプ高圧水銀ランプ 250形	260
	HIDランプ高圧水銀ランプ 300形	310
	HIDランプ高圧水銀ランプ 400形	415
	HIDランプ高圧水銀ランプ 700形	730
	HIDランプ高圧水銀ランプ 1000形	1030
	HIDランプメタルハライドランプ 100形	114
	HIDランプメタルハライドランプ 200形	215
	HIDランプメタルハライドランプ 250形	260
	HIDランプメタルハライドランプ 300形	310
	HIDランプメタルハライドランプ 400形	415
HIDランプメタルハライドランプ 700形	730	
HIDランプメタルハライドランプ 1000形	1030	

＜参考＞ 調光制御設備の計算式と使用データ

■使用データ3

種別	種類・灯数等	定格消費電力
HIDランプ	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 35形	46
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 70形	86
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 150形 ・ 磁気式安定器	165
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 150形 ・ 電子安定器	169
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 180形	205
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 190形	210
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 220形	240
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 230形	250
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 270形	292
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 290形	307
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 360形	390
	HIDランプセラミックメタルハイドランプ 100形	110
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 40形	52
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 75形	94
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 110形	125
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 180形	198
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 220形	238
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 270形	288
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 360形	384
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 660形	700
	HIDランプ高圧ナトリウムランプ 940形	990
	HIDランプバラストレス水銀ランプ 100形	100
	HIDランプバラストレス水銀ランプ 160形	160
	HIDランプバラストレス水銀ランプ 250形	250
	HIDランプバラストレス水銀ランプ 300形	300
	HIDランプバラストレス水銀ランプ 500形	500
HIDランプバラストレス水銀ランプ 750形	750	
電球形蛍光ランプ	電球形蛍光ランプEFA10・EFD10形	7
	電球形蛍光ランプEFA15・EFD15形	10
	電球形蛍光ランプEFA25・EFD25形	20
クリプトン電球	クリプトン電球40形	36
	クリプトン電球60形	54
	クリプトン電球100形	90
白熱電球	白熱電球40形	36
	白熱電球60形	54
	白熱電球100形	90
ハロゲン電球_JD110V	ハロゲン電球_JD110V60W	55
	ハロゲン電球_JD110V65W	65
	ハロゲン電球_JD110V85W	85
	ハロゲン電球_JD110V90W	90
	ハロゲン電球_JD110V130W	130
	ハロゲン電球_JD110V200W	200
	ハロゲン電球_JD110V250W	250
	ハロゲン電球_JD110V500W	500

<参考> 調光制御設備の計算式と使用データ

■ 光源色の区分と相関色温度（K）の分類

カタログに光源色の記載が無い場合は、相関色温度（K ケルビン）の値から光源色の区分を確認してください。

光源色の区分	相関色温度（K）
昼光色	5,700～7,100
昼白色	4,600～5,500
白色	3,800～4,500
温白色	3,250～3,800
電球色	2,600～3,250

お問い合わせ・相談・連絡窓口

一般社団法人 環境共創イニシアチブ
先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金

補助金申請に関するお問い合わせ窓口

TEL : 0570-055-122 (ナビダイヤル)
042-303-4185 (IP電話からのご連絡)

受付時間 : 平日の10:00~12:00、13:00~17:00
(土曜、日曜、祝日を除く)
通話料がかかりますのでご注意ください。

SIIホームページURL <https://sii.or.jp/>
事業ページURL <https://sii.or.jp/cutback03/>



事業ページQRコード